



『なぜ中国人は財布を持たないのか』

中島 恵 著

日本経済新聞出版社（日経プレミアムシリーズ） 2017/10 232p 850円（税別）

- プロローグ どうして日本人はまだ現金を使っているの？
1. 発展が早いのは、遅れていたから
 2. 「不信社会」をスマホが変える
 3. 中国人は情報統制されている？
 4. カネの亡者は消えたのか
 5. 日本の経営者の教えに涙を流す
 6. 「バクリ天国」に困惑する人々
 7. 結婚も出産もしない若者たち
 8. 「異質な隣人」が台頭する恐怖
- エピローグ 日本と中国という合わせ鏡

【要旨】隣国・中国の社会が急速にIT化し、スマートフォンによる決済手段（スマホ決済）が当たり前のように使われている、といった現状が日本でも報道されるようになってきた。日本を訪れた中国人観光客が現金支払いのみの店に遭遇し、「日本は遅れている」と感じたなどという話も聞かれる。本書では、そうしたスマホ決済をめぐる現状をはじめ、さまざまな局面における中国社会と中国人の変化をレポートしている。巨大な国土と人口を有する中国は日本人の想像以上に多様であるにもかかわらず、日本のメディアはそのうちの一面しか伝えていない、と指摘する著者は、現地あるいは日本に住む中国人の話や自らの中国での体験をもとに、トレンドの背景にまで考察を深める。著者は、フリージャーナリストとして主に中国、香港、アジア各国のビジネス事情や社会について執筆を進めている。

●屋台や路上生活者にまで広がる中国のスマホ決済

中国人とスマホは切っても切れない関係になってきた。私がそう強く意識し始めたのは2014年2月だった。

スマホの普及当初は、ウィーチャット（中国版LINE）やショッピングなどに活用する人が多かった。しかし14年にテンセントがウィーチャットペイという第三者決済サービスを開始した。これによってスマホは「財布」になり、生活必需品になった。

それ以前、04年から電子商取引最大手、アリババが運営する決済機能、アリペイはあった。今、ウィーチャットとアリペイの二つが、中国人のスマホ決済として最も幅広く利用されている。決済できる範囲はありとあらゆる場面に広がっている。スマホで決済できない支払いはほとんどないといっている。

中国の調査会社「易観」によると、17年3月現在、ウィーチャットペイの利用者は約8億3000万人、アリペイは約4億人で、両方使う人も多い。16年のスマホ決済額は日本円にして600兆円にまで膨らんでいる。これほどまで広がるのは、利用方法がいたって簡単だからだ。

私が体験したところでは、コンビニや百貨店などではQRコードをレジに表示させスマホで読み取れば、それだけでOKだ。個人商店、屋台などでもほとんどの店にQRコードがあるので、そこにスマホをかざして読み取り、金額をスマホに入力するだけでいい。すぐに完了し、残高から引き落とされる。私は北京でさくらんぼを売る屋台にQRコードが置いてあるのを見かけた。

スマホ決済の最大の利点は（屋台などの場合）利用者双方に手数料が発生しないことだ。また、クレジットカードのように読み取り端末を置く必要もない。小規模な店舗は経済的な負担がなく、ただQRコードさえ用意すれば、その場で入金確認ができる。

上海の20代の若者は銀行はもちろん、ATMに並ぶこともなくなった。銀行に行くのはスマホが使えない老人だけで、しかも銀行が混んでいるのは年金支給日だけになったようだ。

上海の地下鉄の車内や駅では、今も路上生活者を見かける。彼らは現金を入れてもらう缶を地面に置いたり、持って歩いたりしているが、スマホ決済を導入しているという。現場は確かめられなかったが、中国のネットでQRコードを首からぶら下げている彼らの写真を見つけることができた。

●社会史や生活習慣が異なる日中を同じ土俵で語ってはいけない

17年6月、日本に帰った私は、中国人の友人を訪ね、興奮気味にこう語りかけた。「最近の中国人は財布も持たないんですってね。お財布からお金を出すと、すごく遅れた国からやってきたようで、ちょっと恥ずかしくなっちゃうんです……」

すると友人はニコニコ笑いながら、少し首をかしげ、「私は安心して現金が使える日本社会のほうがよほど落ち着いていて、かえって日本人のことがうらやましいけどな」と答えた。

友人はいう。「中国はこれまであまりにも不便で、あらゆる面で遅れていたからこそ、ここまでスマホ決済が発達したんです。既存のインフラがない、あるいはあっても不十分だったから、新しいサービスが普及する余地があって、

KNBCビジネスニュース~ブックダイジェスト~ 2018年4月

その便利さにみんなが飛びついて爆発的に広がったんです。つまり、中国の場合、スマホ自体が社会のインフラになったのです。だから、スマホを使わなければ、この国では生きていけない。ただ普通に暮らしたいだけなのに、行政からの知らせやアンケートもウィーチャットで送られてくるのですから……。スマホができなければ、社会から脱落してしまう」

「日本は社会と人とが信頼し合える“相互信頼社会”なんです。これは日本の財産。中国と日本の生活環境は根本的に大きく異なっている。そのベースとなる部分を見過ぎて、何でも同じ土俵で語ってしまうのは危険だし、きっと今の日本と中国が置かれている状況を誤解するのではないかと思います」

●ニセ札、行列、賄賂をなくすのに貢献しつつあるスマホ決済

ニセ札問題は長いこと中国人を悩ませてきた。スマホ決済が普及して多くの人は「よかった。これでもうニセ札をつかまされる心配がなくなった」と安心した。もしかすると、これがスマホ決済への移行によって得られた、最も大きな効用だったかもしれない。

スマホ決済の普及によって、中国人の生活上のストレスも大幅に軽減された。たとえば空港や駅、飲食店での大行列だ。とにかく人口が多い中国では、どこに行っても延々と並ばされる。スマホでチケットが予約できたり、レストランの順番待ちもスマホに知らせが来たり、飛行機の遅延も事前にチェックできたりするようになって、行列は相当減った。

「賄賂が渡しにくくなった」のもスマホ決済による効果だ。現金は痕跡が残らないが、スマホ決済なら跡がつくので賄賂も渡しにくくなる。

そして、これは北京に住む友人がいていた話だが、スマホ決済によって支払いの手続きがスムーズになり、飲食店や小売店の店員と会話する機会がかなり減ったのもストレス軽減につながっているという。これまでの中国社会は人と人との摩擦やトラブルが多く、ストレスフルだった。

考えてみれば、動乱の時代が長く、革命によって王朝が変わってきた中国では、昨日まで使っていた紙幣が一夜にしてまったく価値のない紙切れになってしまうことがあった。

日本人には、中国人は「成り金」趣味で、派手できらびやかなものが好きだからゴールドを好むのだろう、と思っている人もいるかもしれないが、そうではなかったのだ。先祖代々、常に不安定な状況で生活してきた彼らにしてみれば、ゴールドはどんな時代でも価値の変わらないもの、生きていくために必要なものだった。

もしかしたら、現代ではスマホが現金のリスクを解消してくれる、かつてないツールであり、リスクヘッジ・ツールの一つなのかもしれない。そのことを中国人は潜在的に察知して、スマホがここまで進化したのではないだろうか、とすら感じた。

●民間企業による「採点」システムが「いい行動」を促す

以前、中国で働く日本人から、「中国人は人を騙すから嫌いだ」という話をよく聞かされた。ところが、このイメージは今、思いがけない形で覆されようとしている。

それは中国人の心に“人を信用し、信用される喜び”を植えつけ、「いい人」を作り出していくシステム「芝麻（ごま）信用」だ。これはアリペイのアプリの一つで、簡単にいえば、自分の評価をまとめた採点表のようなものである。採点の結果、よい行いをすれば自分の評価が高くなって、悪い行いをすれば評価が下がるというもの。本人はこのアプリで、自分の“信用度”をいつでもチェックできるようになっている。

芝麻信用の情報を開示することによって、ホテル予約の際に保証金が不要になったり、婚活サイトでは優先的に条件のいい相手を紹介してもらえたり、海外旅行のビザが早く取得できたりする。逆にポイントが低いと、住宅ローンが借りにくくなる、数カ月シェア自転車の利用が禁止される、就職の採用試験で不利になる、などのデメリットや、手痛い制裁を受けたりする。

上海で働く30代半ばの女性は、「これはマナーの悪い人や人を騙してきた人にはすごくいいクスリだと思います。そのうちこれに慣れて、ポイントがもらえなくても、自然にいい行動ができるようになると思います」という。

中国は、頻りに訪れている私の想像をも超えて、大きな変化を遂げている。中国人は、私たちの固定観念をはるかに超えて、劇的に成熟してきている。私たち日本人が、等身大の彼らを素直に受け止めることができたなら、また新たな発見がある。それこそが、私たち日本人もさらに成熟を重ねていく、ということの意味する。

コメント： 私たちは、異郷の地の文化や国民性など「実はよく知らない」ことに関しては、どうしても固定観念でものを見がちだ。目新しい現象があっても、以前からの「見方」に無理やり当てはめ、「変わっている」ことを認めながらもなかったりする。中国はまさにその典型的なケースのように思う。本書を読むと、中国人の国民性や価値観、とくに私たちがネガティブに捉えている部分が大きく変わってきていることを実感させられる。現状、スマホ決済や「芝麻信用」などは変化の振りが大きすぎる印象があるが、これも変わっていくのではないか。中国政府や企業、そして国民自身は、私たちが思っている以上に、問題や課題を自覚しているはずだ。じきに改善され、「成熟」した大国になっていくにちがいない。